



ホテイアオイが、少しの間に、急にふえたのはどうして

ランナーを出してふえる

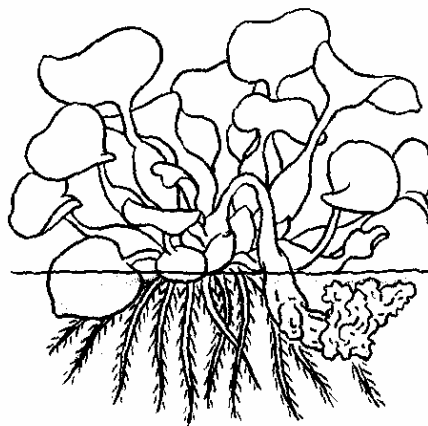
ホテイアオイは、水が浅い所や、ふつうの地面では、土の中に根をのばしています。水が深い所では、ふくらんだ葉の「え」が、うきぶくろの役目をし、根が重りの役目をして、水面にういている植物です。

ホテイアオイがふえる方法は、二通りあります。夏、水中にういているときは、イチゴと同じように、ランナーという特別なくきを四方に出し、そのくきの先に、子どもができるのです。子どものホテイアオイは、日光やたっぷりある水のおかげで、すぐ大きくなり、やがて親からはなれて、ランナーをのばし、子どもをふやします。こうして、見る間に、広い水面を、ホテイアオイがおおってしまうようになります。

水面に並んでいるホテイアオイのどれかを、ちょっと引っ張ってみましょう。きっと、ランナーでつながった何本かが、いっしょに引っ張られてくるはずです。

ホテイアオイは、種でもふえる

ホテイアオイは、夏には、うすいピンク色の花が咲きます。花は、咲き終わると、「え」が下に曲がって水中に入り、種ができます。ホテイアオイは、秋にはかかれてしまいますが、種が、水底で冬をこし、春、水中で芽を出します。水底の土の中に根をのばし、葉ができ、ふくらんだ葉の「え」ができると、根が切れて、水面にうき上がってきます。そして、ランナーをのばして、ふえていきます。(監修・矢野 亮)



咲き終わった花は、水中にもぐる

